

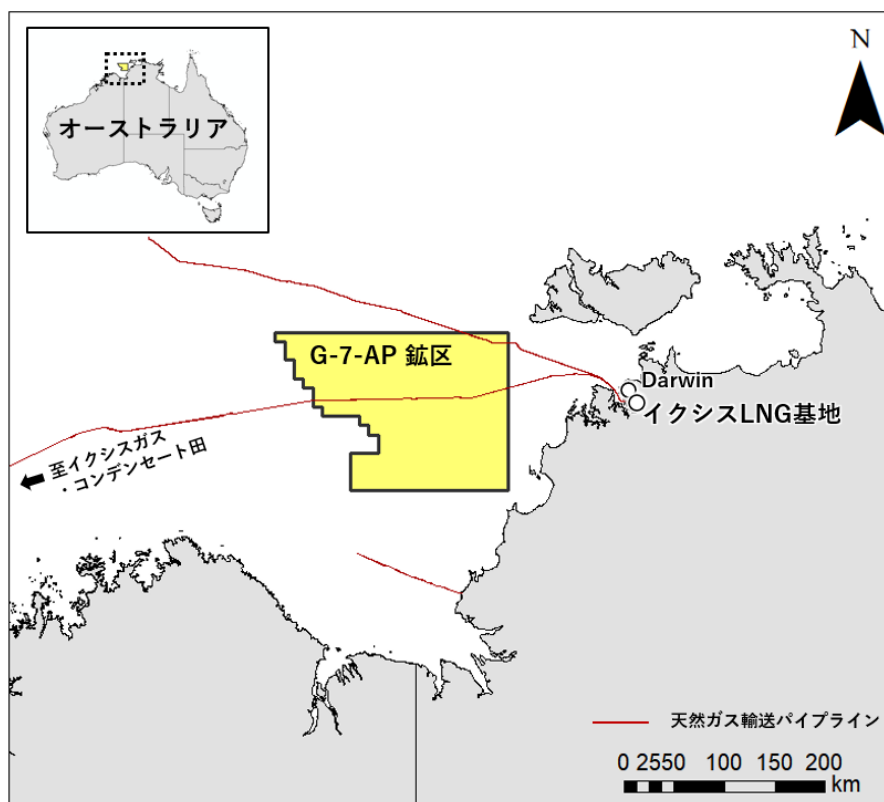
会社名 株式会社 INPEX  
代表者名 代表取締役社長 上田 隆之  
(コード番号 1605 プライム市場)  
問合せ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 脇田 嘉博  
電話番号 03-5572-0233

## オーストラリア 北部準州沖合 GHG<sup>\*1</sup>アセスメント鉱区 (G-7-AP) の落札について

株式会社 INPEX (以下、当社) は、当社子会社の INPEX Browse E&P Pty Ltd (以下、IBEP 社) を通じて、このたびオーストラリアにて実施された 2021 年 GHG アセスメント鉱区公開入札において、G-7-AP 鉱区 (以下、本鉱区) をパートナーである TotalEnergies CCS Australia 社および Woodside Energy 社と共に、ボナパルト CCS<sup>\*2</sup> 評価共同事業体 (以下、同事業体) として落札しましたので、お知らせいたします。

<sup>\*1</sup> GHG (Greenhouse Gas) : 温室効果ガス

<sup>\*2</sup> CCS (Carbon dioxide Capture and Storage) : 二酸化炭素の分離回収・貯留



G-7-AP 鉱区ロケーション

本鉱区は、オーストラリア北部準州の北西沖合の水深約 30~75 メートルの海域にあり、温室効果ガスの地下貯留に適した地域とされているボナパルト堆積盆地に位置しています。



本鉱区では IBEP 社がオペレーターとして 53 パーセントの権益を保有し、TotalEnergies CCS Australia 社および Woodside Energy 社と共に同事業体として評価作業（以下、本鉱区評価事業）を推進してまいります。

当社操業のイクシス LNG プロジェクトも温室効果ガス排出量削減を目標として本鉱区における CCS 機会を活用することが想定されています。更に、世界最大規模の CCS プロジェクトの立ち上げを視野に、本鉱区評価事業は北部準州政府が構想するダーウィン CCUS（Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage、二酸化炭素の分離回収・利用・貯留）ハブ<sup>\*3</sup>（以下、同ハブ）に資することが期待されており、当社は本鉱区評価事業及びイクシス LNG プロジェクトのオペレーターとして豪州北部における CCS 事業の普及を促す重要な役割を担うこととなります。

<sup>\*3</sup> オーストラリア連邦科学産業研究機構（CSIRO）が主体となり、北部準州政府および当社やその他の産業参加者と共同で開発を進めている低排出 CCUS ハブ構想。同ハブを通じて、北部準州が世界的な低排出エネルギー輸出のリーダーとして、新たな持続可能な産業の発展を促すことが期待される。

当社は本鉱区評価事業が、よりクリーンなエネルギーの未来に資する可能性のあるものであり、またそのために協力企業のみならず、日豪両政府とも連携してまいりたいと考えております。

当社は今後も、コアエリアの一つであるオーストラリアでの事業展開に積極的に取り組むとともに、本年 2 月に策定した当社の「長期戦略と中期経営計画（INPEX Vision @2022）」に掲げた当社の石油・天然ガス分野のクリーン化を通じて、多様でクリーンなエネルギーを安定供給し、我が国及び世界のエネルギー需要に応えつつ、2050 年ネットゼロカーボン社会の実現に向けたエネルギー構造の変革に積極的に取り組んでまいります。

なお、本件による当社連結業績への影響は軽微です。

以上